

- 第1回／佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長 横口 博さん 長野市産振興部観光課課長
 第2回／久米えみさん ながのクラッセ会長 横口 敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー
 第3回／鷺沢幸一さん アスレナガの事務局長 室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事
 第4回／清水隆史さん フォトグラファーほか 常盤 昭二さん CMディレクター
 第5回／虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト
 第6回／竜野泰一さん 株式会社エーシー工設計 取締役副社長 [一級建築士]
 第7回／木田勇さん 信濃グランセローズ監督
 第8回／荻原健司さん 參議院議員・五輪金メダリスト
 第9回／松島憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授
 第10回／松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授
 第11回／浜このみさん クッキング・コーディネーター
 第12回／角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長
 第13回／針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)
 第14回／水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長
 第15回／パドゥ・ピエイラ監督・薩川了洋コーチ・貞富信宏キャプテン
 第16回／町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事
 第17回／中山修さん 中山法律事務所 弁護士
 第18回／塩澤研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 株式会社水輪ナチュラルファーム代表取締役
 第19回／小出陽子さん (同)ふきっ子の会代表 信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー¹
 第20回／宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋
 第21回／志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よっこらしょ 代表理事
 第22回／薩川了洋さん AC長野バルセイロ新監督
 第23回／石沢一男さん (有)田舎工房 代表取締役
 第24回／新谷志保美さん バンクーバーオリンピック代表 竹村製作所 勤務
 第25回／越和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 システックス所属
 第26回／鈴木政一さん 長野バルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長
 第27回／千村尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ
 第28回／川崎史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表
 第29回／安藤長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長野県隊長(第二次派遣隊)
 第30回／マブソン青眼さん 俳人・比較文学者
 第31回／井上裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員
 第32回／田幸淳男さん 信越放送取締役相談役
 第33回／飯室織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166/バックパッカーズ」運営
 第34回／相原哲さん ながの町神輿連合会武蔵会会頭
 第35回／小林亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務
 第36回／薩川了洋さん AC長野バルセイロ監督
 第37回／小宮山義光さん 日本野鳥の会長野支部会員
 第38回／塩澤研一さん 農業生産法人株式会社水輪ナチュラルファーム代表取締役/(財)いのちの森文化財団副理事長
 第39回／久田達男さん NTT東日本長野支店長
 第40回／山田隆さん しなの鉄道株式会社 専務取締役
 第41回／藤岡牧夫さん イラストレーター・絵本作家
 第42回／矢澤秀成さん 園芸研究家/ながの花と緑そして人を育てる学校校長
 第43回／近藤京子さん カウンセラー/NPO法人「わくわく志事研究所」所長
 第44回／栗田貞多男さん 写真家
 第45回／鴨志田明弘さん 野村不動産アーバンネット株式会社 企業不動産部専任部長
 第46回／天野良彦さん 信州大学工学部物質工学科教授
 第47回／美濃部直彦さん AC長野バルセイロ監督
 第48回／丸田勉さん 脚本・演出家 森の家 林りん館館長
 第49回／浅野邦子さん 株式会社箔一 代表取締役会長
 第50回／平沢幸子さん 長野朝日放送 アナウンサー



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人
長野都市経営研究所

〒380-0834
長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail:nupri@nupri.or.jp



通信

Vol. 97
2025.11



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人 長野都市経営研究所

第97回

今後の長野を担う、地域人材育成とは

講師／小宮山 文登さん

教育・人材育成コーディネーター

■座長：岩野 彰／会場：NUPRI事務所 令和7年11月13日(木) 18:00～20:00

近年多くの地域企業が人材不足に直面しているなか、学生たちは旧来の就職観に疑問、戸惑いを抱いているともされます。今回のわいがやサロンは学生・行政・経営者等が枠組みを超えて考えを交わすことで、これから地域人材育成の可能性を探っていきます。講師は前回と同じく20代前半の若者です。

『ひと、を起点に活動

今春、長野県立大学グローバルマネジメント学部を卒業し、フリーランスで主に学生と企業・自治体と共に創るプロジェクトの設計やファシリテーション、コーディネート等を行っています。

2年前から出身地の山梨と長野と東京の3拠点生活を送っています。例えば山梨・長野・東京の公立高校で「総合的な探求の時間」授業を設計、運営、明日は東京都立第四商業高校に行きます。生徒たちの言語・身体からあふれ出る内発的動機を引き出し、自分がやりたいことが生まれる機会をつくります。「三菱みらい育成財団」が全国各地で開いている教育関係者向け「地域別交流会」のファシリテーションなどで経験をしながら場づくりを学んでいます。小布施町の産学官連携事業や長野市の企業と学生をつなげるプロジェクト等に携わっていると同時に大学院に在籍していますので長野にいる割合が多いです。

幅広く活動しているので、何でこんなことやっているの?とよく訊かれます。僕はひとがことを生み出し、地域・社会を豊かにしていく——そんな想いで『ひと、を起点に活動しています。⇒右図

ワークショップ形式で進行／『ごはん、が大事

[出席者はくじで席決め/学生は各1人/ファシリテーション進行]まずは、チーム内での自己紹介から始めます。〈名前〉〈やっていること〉〈はまっていること〉を今朝、早く起きた順でどうぞ。

お互いのことを知り合ったところで次は〈就活〉〈採用〉〈人材〉という3つのワードを聞いてどんなことが浮かぶか付箋に書いてください。ポジティブなことでもネガティブなことでも、それぞれの目線からどう見ているかを可視化したいです。

書けたらチーム内で発表します。

▶学生:緊張/面接/インターン短い/難しい自己PR/型にはまった面接、質問/不採用の理由を知りたかったetc. ▶学生以外:出会い/持久力ほしい/人間力/人出不足/売り手市場/すぐやめてしまう/新人が育つまでの年数を待つのが難しい/転勤させて成長させたいが断る社員が増えているetc.

学生のリアル、企業側のリアル……いろいろ見えてきたと思います。これから軽食を配りますので食べながら対話し、それぞれの考え方を共有しましょう。僕は『ごはん、縁食、などを使い、参加者がフラットになる場づくりを大事にしています。

就活生も地域も企業も悩んでいるからこそ

昨今、キャリアの状況は以前と変わり、転職、フリーランス等選択肢が広

がっていてそれが学生にとって希望もあり戸惑いでもあります。安定とされてきた大手企業や親が安心する公務員も自分のやりたいことではないかもと不安に葛藤しつつキャリアを歩む人もいれば、そもそも働くことへの疑問、仕事は稼ぐ手段でしかないと思う学生も増えています。また、地方の学生は就職先を選ぶとき、都会か地方かで迷います。一度は東京で働いてみたい、都会でスキルを付けたいという学生は多いです。僕は何をするかということよりも、まずはどんな自分でいたいかを考えることが大事だと思います。僕自身は地域の会社・仕事、社会に対してポジティブに向き合いたい。個人の幸せと会社の幸せが同時多発する社会を目指したい気持ちをもっています。

長野県立大学に関していえば6割が県外出身です。地域や企業が地元への定着を望むなら工夫が必要だと思います。

ダニエル・キムという学者の「成功循環モデル」を聞いたことがありますか? 循環にはグッドサイクルとバッドサイクルがあり、前者は〈関係の質〉がよくなると→自然と〈思考の質〉が上がる(新しいアイデア等)→人々の〈行動の質〉を高め、成果が生まれ→〈結果の質〉につながる→ますます関係がよくなるというサイクルです。しかし今は結果が先に求められて、その結果バッドサイクルが人材採用でも起きている気がします。

目指す人材育成モデル——Step1として、出会いと対話=まずは地域に暮らし、働く多様な人々が集まりフラットに対話する機会を設けます。例「日々のあり方」。Step2として、共に働く体験=実践型インターンシップ(プロジェクトリーダー型)で相互理解を深めます。この流れで「この街に育ててもらった」「この人と、企業と働きたい」問い合わせを引き出します。それによりStep3として、採用・定着支援=インターン後の採用、関係人口としての関わり継続。Step3として、採用・定着支援=インターン後の採用、関係人口へのつながりを作ります。Step4として、採用後も複数企業や自治体が連携し、街ぐるみで育成する研修・プログラム構築などを作り、さらに地域人材を育成していくエコシステムを形成していきます。これを行う共同体を企業、自治体、教育機関、学生が一体となって行うことが大切だと考えています。

最後に今日の感想を全体発表してください。

▶学生:「日々のあり方」で企業の方と話せ、将来に対する不安が薄らいだ(今日も)/学生以外:市として起業やスタートアップ支援をしてきたが、もっとフラットで緩やかな取り組みもあっていいのではと思った/「働きたい町に」という言葉が印象的だった/長野で生活することの魅力をもっと伝えたいetc.

地域全体での共育

スライドや学生の感想に幾度か出た「日々のあり方」とは自分含む学生有志が企画して始めた長野県立大学のキャリアイベントです。参加した学生は社会人の生の話を聞いて、異世代で同じ価値観に出会えたり、人柄を知ってこの人と働いてみたいと、より良い進路探求につながっているのではないかと感じています。

学生側からインターンが短い旨が発せられましたが、僕は体験からも実践型・中長期がいいと思います。学生のうちに地域・長野の会社に関わって本気で向き合う体験をしていれば自然と地域・長野に愛着が生まれることでしょう。実際に就職したときのバネになり、もし挫折したとしても働く定着率に、また住みたい町の実現につながるのではないかと思っています。

今夜のように何事も『ひと、と出会って対話することから始まります。学生との関係性を育み、採用に至るまで皆さんと一緒にやっていきたいと思っているのでよろしくお願ひします。

鷺澤理事長:私は「日々のあり方」体験者ですが、初めての方は新鮮だったのではないでしょうか。若者たちとコミュニケーションする機会をNUPRIとしても引き続きもっていきたいと思います。



「縁食(藤原辰史が説く、孤食とも共食とも異なる新しい食のかたち)」を取り入れているイベント「日々のあり方」(2025.2開催)